

玉川大学 転・編入学案内

TAMAGAWA
UNIVERSITY 2019

教育学部

教育学科

文学部

国語教育学科

芸術学部

パフォーマンス・アーツ学科

芸術教育学科

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

経営学部

国際経営学科

農学部

生産農学科

環境農学科

先端食農学科

工学部

情報通信工学科

エンジニアリングデザイン学科

マネジメントサイエンス学科

ソフトウェアサイエンス学科

玉川大学のカリキュラムと転・編入学

本学のカリキュラムには、建学の理念である「全人教育」を理論的、体験的に学び、かつ幅広い教養を身につけることを目的とした「ユニバーシティ・スタンダード科目」と、各自の将来設計に合わせ必要な専門分野の知識を修得するための「学科科目」があります。「学科科目」はさらに100番台科目から400番台科目の4つに区分され、学修進度に合わせて順に履修するようになっています。

■ カリキュラム(3年次編入学生参考)		合計124単位以上必要			
8 セメスター	人文科学科目群	400番台科目	卒業研究	500番台科目	4年次
7 セメスター	社会科学科目群				
6 セメスター	自然科学科目群	300番台科目			3年次
5 セメスター	学際科目群				
4 セメスター	言語表現科目群	200番台科目			2年次
3 セメスター	教職関連科目群				
2 セメスター	資格関連科目群	100番台科目			1年次
1 セメスター	玉川教育・FYE科目群 一年次セミナー101 一年次セミナー102 玉川の教育 健康教育 音楽I・II				

ユニバーシティ・スタンダード科目

学科科目

転・編入学後の履修科目

転・編入学生は本学の建学の理念である「全人教育」の理解のために、ユニバーシティ・スタンダード科目の「玉川の教育」が必修となります。また、転・編入学以前に修得した単位の状況を確認したうえで履修指導を行ないますので、3年次編入の場合でも4セメスターの開設科目の履修が必要となる場合もあります。授業内容はシラバスを公開していますので、以下を参照してください。

<http://unitama.tamagawa.ac.jp/> →「シラバス照会」へ

セメスター制

1年を独立した2つの学期(春学期/秋学期)に分けたセメスター制を採用しています。大学4年間で合計8セメスターの学期を設定し、それぞれの期間ごとに履修すべき科目を設置しています。それらの科目は、指定されたセメスターで履修するもの、あるいは複数のセメスターの範囲内で履修すればよいものに分類されています。自分の興味や進路に合わせて、計画的に履修してください。

卒業単位

卒業に必要な単位は124単位以上です。転・編入学以前に修得し本学で認定された科目の単位と転・編入学後に本学で修得する単位、併せて124単位以上が必要です。

本学独自のカリキュラムのアウトラインをモデル化したのが上の図です。

GPA制度

個々の学修達成度の評価方法として、修得単位数以外に、1単位当たりの学修成果を測るGPA(Grade Point Average)制度を採用。履修した科目の成績(5段階評価)をもとにポイントを算出します。累積GPAが2.00以上であることを卒業要件としています。また、次のセメスターに進む時や資格取得、留学などの際に、判断の基準となる場合もあります。学修に対する意欲的な取り組みが要求されます。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{修得単位数} \times \text{成績値}) \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位合計}}$$

[成績値は、S=4.0、A=3.0、B=2.0、C=1.0、F=0]

卒業要件と転・編入学年次について

全学部共通条件です。

- 卒業要件は、当該学科の所定の卒業要件を充足し、さらに累積GPAが2.00以上であること。ただし、4年を超えて在学(休学期間を除く)することはできない。
- 転・編入学前に修得した単位の中から70点(100点満点中)相当以上の評価を得ている科目のみ、本学における単位認定の対象とする(修得単位すべてが認定されるとは限らない)。本学の科目として既修得単位の振替認定が可能な認定単位数に基づき、入学後の学年を決定する。

■ 1~31単位……1年生 ■ 32~61単位……2年生 ■ 上限62単位……3年生

以下は、転・編入学試験の概要です。試験や出願資格等の詳細については、「転・編入学試験要項」で必ず確認してください。

募集する学部・学科・コースおよび人員			2018年度 入学試験結果	
学部・学科		募集人員	志願者数	合格者数
教育学部	教育学科(保健体育専攻は募集しない)	若干名	15	9
文学部	国語教育学科	若干名	昨年度の募集はありませんでした。	
芸術学部	パフォーマンス・アーツ学科	若干名	0	0
	芸術教育学科 美術・工芸コース		2	2
リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科	若干名	2	2
経営学部	国際経営学科	今年度の一般募集はありません。	—	—
農学部	生産農学科	若干名	昨年度の募集はありませんでした。	
	環境農学科			
	先端食農学科			
工学部	情報通信工学科	若干名	0	0
	エンジニアリングデザイン学科		0	0
	マネジメントサイエンス学科		1	1
	ソフトウェアサイエンス学科		0	0

上記以外の学部・学科・コースは転・編入学試験を実施しません。

選考方法

出願書類および口述試験の結果を考慮しながら合否を判定します。

出願手続

(1)出願期間

【郵便受付】2018年10月17日(水)～10月22日(月) 締切日 消印有効

【窓口受付】2018年10月23日(木)のみ 11:00～16:00

(2)出願書類

本学指定の出願書類の他、出身学校等の卒業(見込)証明書・成績証明書等が必要となります(詳細は、「転・編入学試験要項」で確認してください)。

試験日

2018年11月3日(土)

合格発表

2018年11月8日(木) 郵送通知(発表日に速達・特定記録郵便で合否通知を発送)

その他

2019年度転・編入学試験では、教育学部乳幼児発達学科、文学部英語教育学科、芸術学部芸術教育学科音楽コース、経営学部、観光学部の一般募集はありません。

教育職員免許状・資格等について

【教育学部】

1. 教育職員免許状・資格等について

教育職員2種免許状(同一校種・教科免許状)を有している場合は、卒業時に1種免許状(幼稚園、小学校、中学校保健体育・社会、高等学校保健体育・公民)を取得することが可能であるが、履修条件等によっては転・編入学後の2ヵ年間で取得は難しい場合があるため事前に相談すること。また、教育職員免許状を有していない場合の免許状および諸資格等(学校図書館司書教諭・図書館司書・社会教育主事・学芸員等)の取得は、転・編入学後の学年ならびに認定された教科目の単位数等により異なる。いずれの場合も、卒業時まで取得できなかった場合は、卒業後に科目等履修生により免許状取得の道が開かれる。なお、保育士資格の取得は不可能である。

【文学部】

3年次に転・編入学した場合2ヵ年間で教育職員免許状、及び資格等を取得することは、カリキュラム上不可能である。卒業後に科目等履修生により免許状取得の道が開かれる。ただし、教育職員2種免許状(同一教科免許状)を有している者の1種免許状(国語)取得に関しては事前に相談すること。

【芸術学部】

転・編入学後2ヵ年間で教育職員免許状および諸資格等(学芸員等)を取得することは、カリキュラム上不可能である。卒業後に科目等履修生により免許状取得の道が開かれる。ただし、教育職員2種免許状(同一教科免許状)を有している者の1種免許状(美術・工芸)取得に関しては事前に相談すること。

【リベラルアーツ学部】

資格取得については、資格の種類により、転・編入学後2ヵ年で取得することが、カリキュラム上困難な場合がある。

【農学部】

資格取得については、資格の種類により、転・編入学後2ヵ年間で取得することは、カリキュラム上困難である。

【工学部】

転・編入学後2ヵ年間で教育職員免許状および諸資格等を取得することは、カリキュラム上不可能である。卒業後に科目等履修生により免許状取得の道が開かれる。ただし、教育職員2種免許状(同一教科免許状)を有している者の1種免許状(数学)取得に関しては事前に相談すること。

転・編入学が可能な学部・学科紹介

教育学部 教育学科

学びの内容と特色

教育学部では、全人教育の理念のもとに、教育・保育現場で活躍できる質の高い教員・保育者を養成するとともに、現代社会において教育関連分野に貢献できる人材養成を目的とし、教育・保育現場で求められる実践的指導力、社会の変化やニーズに対応できる総合的な課題解決能力、平和で豊かな社会の実現に積極的に寄与できる社会力、そして専攻する分野における幅広く深い専門力を備えた、人間性豊かな教員・保育者や社会人を育成することをめざしています。そのために必要とされる、基礎的・専門的学力とともに、人間や社会への理解や愛情、規範意識(モラル)、教育や職務への使命感・責任感、自ら研鑽に努める意欲、実社会におけるリーダーシップ等の諸能力の獲得を図っています。教育学科は、「初等教育専攻」「社会科教育専攻」「保健体育専攻」という3つの学修専攻があります。学生一人ひとりのキャリアプランにあわせ、子どもを深く理解し、主として学校教育に関する専門的知識や技能並びに教職における実践的な指導力を併せ持った教員養成とともに教育関連分野に貢献できる人材養成をめざしています。

将来の進路

教育学部は、前身である文学部教育学科の時代から、優れた教師を輩出し、「教員養成の玉川」として高い評価を受けています。本学出身の教員・保育士数は6,000人以上にのぼり、全国の教育・保育現場で、あるいは教育委員会や校長など教育界のリーダーとして活躍しています。

昨年度、約7割の卒業生は教育、学習支援業に就職しています。その他、児童福祉、出版、健康産業、サービス業などの分野へ進む学生、一般企業では人事・事務・営業などの各部門へ。本学で学んだ人材は人を対象にするヒューマンサービス関連分野全般でも歓迎されています。

文学部 国語教育学科

学びの内容と特色

国語教育学科は、言語表現コースと国語教員養成コースがあり、さまざまな言語情報を読み解く力、論理的思考や批判的読解力を培うことをとおして国際社会や国語教育の場で活躍する人材を育成します。

専門分野のフィールド

高度な日本語運用をめざす言語表現コースと、確かな教師力を養成する国語教員養成コースの2つを設けています。言語情報を読み、書く、そして論理的に伝える力を養成し、実践的かつ高度な国語力を身につけることで、多方面で活躍する可能性を広げます。

●言語表現コース 言語表現コースでは、論理的思考力、批判的読解力、言語表現力を養う科目が多く、より高度な日本語運用をめざします。

●国語教員養成コース 国語教員養成コースでは、確かな国語力を次世代に伝えられる「教師力」を養成します。

将来の進路

言語表現コース 取得できる資格

学校図書館司書教諭、図書館司書社会教育主事(任用資格)、学芸員、IB教員、日本語教員 ※履修には条件があります。

国語教員養成コース 取得できる教員免許状

中学校教諭一種免許状(国語)、高等学校教諭一種免許状(国語)、小学校教諭二種免許状*

※1「ダブル免許プログラム」受講により取得可能。受講の際は入学後一定の要件を充足することが必要です。また受講には別途費用がかかります。

芸術学部 パフォーミング・アーツ学科

学びの内容と特色

社会情勢の変化に伴い、大学における芸術教育も、社会や公共性を強く意識した内容への転換が求められています。本学科では、多様な芸術と人々の架け橋となる人材を育成。科目を多く設定して自由度の高いカリキュラムを編成すると同時に、将来の進路に合わせた履修モデルを設け、体系的な学修ができるよう配慮しています。

専門分野のフィールド

【音楽】作曲/声楽/鍵盤楽器(ピアノ・オルガン)/管楽器/弦楽器/打楽器

【演劇】演技/演出

【舞踊】クラシック/バレエ/日本舞踊/コンテンポラリーダンス

【舞台技術】舞台装置/舞台照明/音響効果/舞台衣裳/舞台監督

履修モデル

〈創造〉音楽・演劇・舞踊・舞台技術、それぞれの分野における実技の修得を中心に理論を含めた学修をとおり、専門家の育成をめざすプログラム。

〈応用〉芸術活動をとおりした地域社会との繋がりを重視し、各種インストラクター、リーダーの育成をめざすプログラム。

〈研究〉芸術全般を理論的な立場や鑑賞批評の視点から芸術を研究し、アートジャーナリスト、クリティック、エディター、大学院進学をめざすプログラム。

〈企画運営〉地域文化振興、公共文化事業、芸術関連法人などの世界で必要とされる専門的能力の実践をとおり、プロデューサー、アート・マネージメント、プランナー等をめざすプログラム。

将来の進路

卒業後の進路は、以下を想定しています。

音楽家(作曲・演奏)/舞台芸術家(演出・俳優・舞台監督・舞台装置・音響・舞台照明)/ダンサー・舞踊家/地域文化活動・生涯学習のインストラクター/ドラマ・ティーチャー/児童福祉の専門職/児童表現活動の指導者/芸術コーディネーター/公共文化施設の運営スタッフ/公務員(地域文化振興担当)/企業(放送・映像・芸能・広告)/イベント・サービス業/関係団体・企業メセナ活動/アートスクール経営者、プロデューサー/アートジャーナリスト、リサーチャー/芸術関係編集者/国際交流・芸術文化関係財団職員など

芸術学部 メディア・デザイン学科

学びの内容と特色

デザイン、メディアアート(映像、CG、光・空間演出、総合造形)、コンピュータ音楽・音楽理論、造形理論の4つの柱を中心として、現代のマルチメディア社会、国際社会に対応した総合的な表現力とデジタル技術、そして英語力を学ぶ柔軟なカリキュラムを用意しています。学修は大学内だけでなくとどまらず、社会のさまざまな立場で働く人々と協働し、大学で修得した知識、技能、経験を実社会で応用するプロジェクト型授業をとおり、コミュニケーション力、企画力、実践力、問題解決能力を身につけた芸術による社会貢献ができる人材の育成を図っています。

専門分野のフィールド

【造形系】3次元CG/空間・環境造形/映像/ディスプレイデザイン/グラフィックデザイン/イベントプロデュース/アニメーション/Webデザイン/造形理論

【音楽系】コンピュータ音楽/音楽・音響プログラミング/作曲

履修モデル

〈創造〉アートやデザインの基礎理論と実技を学んだ上で、デジタルとアナログの技術を応用し、メディアアートやデザインの新たな表現を開拓できる人材を育成。

〈応用〉現在のグローバル社会の多様な課題を自ら発見し、問題解決に粘り強く取り組むことができる人材を育成。

〈企画・経営〉メディアアート・デザインの総合力をいかし、多様な分野の複合領域において問題解決能力に優れた人材を育成。

〈研究〉アートとメディアの学際的な研究を掘り下げ、大学院へ進学、海外留学する人材を育成。

将来の進路

メディアアーティスト/造形作家/CGクリエイター/ウェブデザイナー/グラフィックデザイナー/イベントプロデューサー/ディスプレイデザイナー/アートプロデューサー/デザイン事務所スタッフ/広告代理店スタッフ/放送番組制作スタッフ/映像作家/商品企画職/ブランドコーディネーター/フラワーデザイナー/ファッションアドバイザー/アートジャーナリスト/コンテンツプロデューサー/コンピュータ音楽作曲家/音楽系ソフトウェア開発者/企業広報職/コンピュータ関連企業スタッフ/コンピュータプログラマー/芸術文化財団職員/美術館・博物館学芸員/メディア表現活動指導者/アートスクール経営者/公共文化施設運営スタッフ/各種企業営業職/公務員/国内大学院進学/海外大学院進学

芸術学部 芸術教育学科

学びの内容と特色

本学科は芸術学部の教職課程を集約することで2014年度よりスタートしました。音楽および美術・工芸の中・高1種免許取得をメインに据えています*1。さらに小学校2種免許の取得を、従来の通信教育を利用したプログラムから対面授業の形式による小学校課程特別履修プログラムに変更し、4年間で効果的な免許の取得が可能になりました。

カリキュラムでは、コースごとに理論と実技の教科をバランス良く、かつ教職の知識と実践的経験を早い段階から学ぶことを重視しています。また学芸員の資格を取得するカリキュラムも併設し、学校と美術館など、教育機関と社会施設との連携を図る最新のシステムを学修に取り入れています。

専門分野のフィールド

●美術・工芸コース 実技科目では絵画基礎、彫刻基礎、工芸基礎、デザイン基礎、映像メディア表現基礎、理論科目では美術理論、美術史を基礎科目として学び、2年次以降、各専門分野を選択し、さらに学修を深めていきます*2。

また、音楽と美術共通の授業を設置することで、芸術を広範にとらえ、広い視野と柔軟な思考力を養います。3年次以降には、『芸術表現演習』、さらには『芸術教育研究』などの授業をとおり、想像力、応用力、コミュニケーション力、プロデュース力などを理論的、実践的に身につけます。

将来の進路

中学校教員(美術)/高等学校教員(美術・工芸)/小学校教員/学芸員(エデュケーター、キュレーター)/アートスクール指導者/音楽教室指導者/企業や公共施設等のアートマネージャー/教材開発業者/教育系出版社/生涯学習プログラム指導者/海外留学・大学院進学 ほか

*1 「音楽コース」について、本年度の募集はありません。

*2 各専門分野については、芸術学部HP「芸術教育学科 学びのポイント」を参照

農学部 生産農学科

学びの内容と特色

生命に秘められた潜在能力をバイオサイエンスの視点で探究し、多様な生物がもつ未知なる可能性をミクロからマクロの総合科学を駆使して追究します。4つの領域を設置し、植物の栽培、遺伝子組換え、微生物と天然物化学、昆虫の機能解析、動物の生理・生化学などの実験・実習をとおり、生物の新機能の開発につながる研究を行います。

専門分野のフィールド

●植物科学領域

植物・作物の栽培技術、品種改良や遺伝子解析などに関する研究に取り組みます。

【主な学問分野】園芸学、果樹園芸学、栽培学、植物分子育種学

●微生物科学領域

微生物、微生物が生産する有用成分、および、農作物の病害防除を研究します。

【主な学問分野】天然物化学、植物病理学、菌類資源学、微生物資源学

●昆虫科学領域

社会性昆虫を中心に昆虫の行動・生態や機能利用、適応と進化の仕組みなどを研究します。

【主な学問分野】昆虫機能利用学、化学生態学、昆虫生理学、昆虫生態発生学

●動物科学領域

哺乳類や水生生物の生態における恒常性の維持機構や行動の生理・生化学的基盤などの研究を行います。

【主な学問分野】細胞生化学、水圏生態学、動物生理学、細胞生理学

※ 生産農学科理科教員養成プログラムは募集しません。

将来の進路

種苗会社、製薬会社、香料会社、農業生産法人、JA、農業機械メーカー、市場、公務員、大学院への進学 など

学びの内容と特色

農学を基本としつつ、自然環境や生産環境を深く理解し、地域性と国際的なセンスを兼ね備え、持続的循環社会の構築に貢献できる人材を養成することをめざします。具体的には農業に関する分野・諸問題に強い興味や取り組む意欲を持ち、生態系、農業生産、社会の3つの視点から「環境」を理論的・実践的に理解し、さまざまな問題解決に必要となる主体性と協調性を身につけるために、生態系科学領域と持続的農学領域の2つの領域に所属して学修を深めます。

専門分野のフィールド

●生態系科学領域

生物と環境の相互作用、生物の多様性、環境評価について学びます。

[主な学問分野] 環境動態学、植物機能生態学、進化生態学、分子生態学、動物生態学、野生動物管理学

●持続的農学領域

生産システムの構築、環境保全型農業、環境変化解析、国際的な農業の現状や農業マーケティングについて学びます。

[主な学問分野] 持続的農業システム学、植物繁殖学、保全生物学、環境解析学、国際協力論、環境フードシステム学

将来の進路

農業・環境関係団体、農場生産法人、農業／生物／食品関連企業、環境情報系企業、JICAなどの国際支援組織、公務員 など

学びの内容と特色

食品の安全性や機能性、食品の持つ役割について理解を深め、既存の農業を超えた新たな食料生産のしくみや食品加工、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を修得します。植物工場や陸上養殖など最先端のシステム化された食料生産技術に関する知識や能力を身につけ、また、食品の機能性や安全性、食品の製造・加工に関する知識や能力を習熟できる学修環境の提供を通じて、新しい食料生産、食品加工の分野で活躍できるエキスパートを育てます。

専門分野のフィールド

●システム農学領域

植物工場や陸上養殖など新しい食料生産のしくみを探究し、社会に通用する食料生産システム技術の最新技術を学びます。

[主な学問分野] 植物生理学、生物環境工学、園芸植物学、水産学、養殖学、微生物生態学

●食品科学領域

食べ物のおいしさと健康機能を探求し、食品の機能性、アレルギーとの関係などについて研究しています。食品栄養学、食品製造学、食品分析化学、食品微生物学、養蜂学等の知識と技術を身につけます。

[主な学問分野] 食品化学、食品栄養学、臨床栄養学、食品衛生学、食品製造学

将来の進路

食品製造・加工会社、植物工場会社、水産加工会社、農業生産法人、JA、公務員、病院、学校給食会社、食品流通会社 など

学びの内容と特色

グローバルな思考力と活気にあふれた次世代リーダーの育成を目標。

●グローバルビジネスに直結する『実践力』……経営学、会計学、マーケティングなどの経営・ビジネスの基盤となる主要科目を世界標準の英語テキストで学修。さらに経営者や実務家を招いた『経営塾』でグローバルなビジネス活動や世界に向けた発信力を実践的に学ぶ。

●世界を舞台にして活躍するための『英語力』……日本語・英語の両言語をとおして世界標準の経営学を学ぶ学修アプローチ (Dual Language Program) を実施。英語と専門科目の融合型のカリキュラムで、実践的かつ専門的な英語の活用力をさらに磨く。

専門分野のフィールド

学生の将来の目標・適性に合わせた、少人数制の『専門3コース』を選択。

グローバルビジネスコース ビジネスのグローバル化に対応できる英語力、実践力、発信力を強化。TOEIC®L&R700点を目標。

国際会計コース 国際会計・ファイナンスの知識と実践的スキル修得、論理的コミュニケーション能力の強化。BATIC(国際会計検定)®700点到達を目標。

マーケティング戦略コース 数理能力とコミュニケーション力をベースに、グローバル時代のマーケティング・マインドとイノベーション創出力を実践的に強化。TOEIC®L&R700点を目標。

将来の進路

グローバルビジネスコース グローバル展開を進める日本企業。外資系企業。グローバルな事業展開を志す経営者・後継者など。

国際会計コース グローバル企業の財務・経営・企画部門。会計専門職(公認会計士・税理士・米国公認会計士)。金融機関・外資系企業。経営者・後継者など。

マーケティング戦略コース 企業のマーケティング部門。商品・ブランド開発・マーケティング・市場調査・データアナリスト・コンサルタントなどの専門職。起業家。

学びの内容と特色

人文、社会、自然科学を超えた広い学問領域で自分を磨き、興味に応じて段階的に専門性を深めます。「広さと深さ」を同時に追究し、急速な社会の変化に対応できる基礎知識を養い、Plan(構想力)、Practice(実践力)、Promote(推進力)の体験・実践教育により、多方面のコミュニティでリーダーシップをとれる行動力があり、調和のとれた人材を育成します。「世界がわかる、自分がかかわる」それがリベラルアーツ学部です。

専門分野のフィールド

本学科では、各自の目標に応じて「哲学・宗教」「心理学」「社会学」「日本語・日本文学」「日本文学」「国際関係」「STEM」の7メジャーのいずれかを専攻します。学際的研究を推進するために、サブメジャーを選択することもできます。多様な演習科目を受講しつつ、各自が希望する専攻分野の基礎的な研究方法等を学びます。

各自がデザインする学びのためのプロセスは、学内での授業のみに留まらず、学外でのフィールドワーク(調査実習)、インターンシップ(就業体験)、NPO法人等での活動実習など多岐にわたり、「リベラルアーツセミナー(ゼミ)」では卒業までさらに専門的な学習・研究を深めて卒業プロジェクトとしてまとめていくことができます。

将来の進路

社会や企業が求める、「問題解決能力」「課題を設定して職務を遂行できる能力」「コミュニケーション力」を念頭に、コミュニティでリーダーシップをとれる人材育成をめざしています。卒業生は金融・広告・出版・観光・ITなどさまざまな企業への就職、大学院進学など、多彩な分野で活躍しています。

学びの内容と特色

情報通信工学科は、進歩著しいICT(情報通信技術)を中心に「人と人をつなぐ」次世代の技術を学びます。「ものに埋め込まれたセンサによるつながりIoT(Internet of Things)」の技術をソフトとハードの両面から徹底的に修得するとともに、ロボット・人工知能、ビックデータ解析、クラウドコンピューティング、自動運転用量子レーダなど最先端の情報通信技術を学び、高度情報化社会を支える技術者としての力を身につけます。

専門分野のフィールド

主な専門領域

自動運転技術(量子レーダ)

いかなる天候にも対応できるカメラ機能を実現する量子レーダの基礎を学び、その開発に参加。情報ネットワークについて学修します。

人工知能・脳科学

組込みプログラミングの経験をとおして知的に動くモノの仕掛けを知り、人工知能の基礎を学ぶとともにその関連知識を修得します

将来の進路

卒業後の進路は、以下を想定しています。

組込みソフトウェア開発者、マイコン技術者、ロボット技術者、システムエンジニア、システムインテグレイタ、ネットワークエンジニア(電子・情報通信)、セールスエンジニア、データサイエンティスト、大学院進学、高校(数学・工業)教員など

学びの内容と特色

国際競争で力を発揮し、社会に真の価値を提供できる実践的経営者・管理者(マネージャー)・技術者、およびマネジメント力をもった数学教員を養成しています。多様な視点で経営企画力を身につけ、商品づくりから企業経営に至るまで、広範囲なフィールドで活躍できるマネジメントのプロを養成するために、「人・情報・環境・金」の経営要素に重点をおき、マネジメントの理論と実践手法を修得します。数学教員養成では、数学教員に必要となる教職・数学専門力に加えてマネジメント力を養います。

専門分野のフィールド

サービスマネジメント領域 サービス・製造業界の経営者・管理者をめざす領域です。21世紀に入り、サービスの提供者と受け手が『サービスの価値をともに創る』という考え方になっています。サービスの価値共創プロセスをマネジメントし、まだ世の中にないモノやサービスを創り出す力を養います。

主な専攻群プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、社会モデル、消費生活科学経営情報システム領域 企業経営ないし、その支援にかかわる人材(経営者、管理者)の育成を目的としています。企業戦略の立案、新規事業の立ち上げ、経営情報を活用した戦略分析などが将来従事する業務分野として想定されます。

主な専攻群ビジネスコンテンツ、管理会計、経営情報分析

数学教員養成コース 本コースは、学級経営や数学的活動を企画・実践する際に必要なマネジメントの素養を身につけた中学校、高等学校の数学教員を養成することを目的としています。専門科目を学ぶとともに、演習科目を受講することで、教職・数学専門力を養います。

主な専攻群幾何学、代数学、解析学、数学科指導法

将来の進路

マネジメントサイエンスはあらゆる組織に対応できる学問であり、その実践的な専門知識を修得した人材の活躍の場は、産業界から行政まで多岐にわたります。卒業生は、製造メーカーへ就職するケースのほか、最近の傾向としては情報・サービス産業への進出が増加するなど多岐にわたります。企業経営、組織運営やニュービジネスの発展に貢献しています。

学びの内容と特色

ものづくりに不可欠な設計・製図・実験などの修得だけではなく、デジタル生産技術・工業デザインなどを取り込むことにより、技術者、経営者としてグローバルに活躍できる人材となりうることをめざします。すなわち、20世紀までの大量生産型ものづくり技術に加えて、デジタルファブリケーション技術を取り入れ、工房(ファブラボ、Fablab)や実験・実習での体験をとおして企画力・マネジメント能力を培い、積極的に技術発信できる、21世紀型ものづくりに不可欠な専門知識を修得します。

専門分野のフィールド

3Dデザイン・3Dマシン領域 「CAD」や「デジタル生産加工」など、ものづくり技術者に必須な学問を身につけ、同時に基礎的な設計・製作技術を修得します。さらにデジタル機器を用いて、独自の設計・製作ができるような思考力と実践力を養い、ものづくり技術者として即戦力となる人材を社会に輩出することを目標にしています。

商品開発・デザイン領域 みんなが使いやすく、安全で環境にもやさしい商品(製品、サービス、環境や情報)づくりや、商品の企画からデザイン・開発・販売まで携われる商品開発・デザインの専門家を育成します。人間生活を支える基盤技術である「人間工学」、「ユニバーサルデザイン」やデータを数理的に扱う「データ処理」などを学び、科学的な思考力と企画力、デザイン力を身につけます。

メカロボット・電気自動車(EV)領域 ロボット・メカロ機器・電気自動車(EV)の開発に携わりたい人、機械設計や製品開発の技術者になりたい人のために、「機械力学」や「設計製図」など、機械工学を中心として、電子情報系の基礎知識も合わせて学びます。ロボットは、メカ、電気、制御、センサーなどの要素からなるシステムで、その機能・性能が動きとして目に見えるため、工学の魅力に触れるには最適なテーマです。

将来の進路

卒業後の主な進路は、機械設計技術者、製品開発技術者、商品技術者、商品デザイナー、セールスエンジニア、メカロニクス技術者、システムエンジニア、生産技術者などが想定されます。また学部で修得した広範な専門知識をもとに、各フィールドにおいてより深く修得するため大学院修士課程進学も準備されています。

学びの内容と特色

高度情報化社会を支える情報ネットワーク技術、モバイルシステム技術、アプリケーション開発、および日本の一大産業であるゲーム・コンテンツ制作技術についてプログラミングを基盤として基礎から最先端まで総合的に学びます。

専門分野のフィールド

アプリケーション開発 自分で考え企画したさまざまなアイデアを実現するアプリケーション開発の基盤となるプログラミングの知識・技能を学びます。プログラミング言語の基礎から数値解析プログラミング、システムプログラミングなどの応用までの多くの科目をとおしてプログラム開発の力を体系的に修得します。

モバイルシステム

本学科は、携帯電話に関する技術(モバイルシステム技術)を総合的に学ぶことができる全国唯一の学科です。スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器のハードウェア技術や通信方式の性能を評価する理論体系、さらにはモバイルサービスやモバイルアプリケーションの制作技術などを基礎から最先端まで修得します。

ネットワーク

あらゆる情報機器をつなぐネットワークを構成する機器および構築法について知識と実践力とをバランスよく学修します。さらに、暗号や電子認証などの情報ネットワークを安心して利用するために不可欠な情報セキュリティについても学びます。

ゲーム・コンテンツ

ゲームプログラミング技術、販売戦略など、実践力のあるゲームクリエイターに要求される知識と技能を取得します。「Nintendo DS Light」の開発環境を使用することができます。

将来の進路

コンピュータシステム、ネットワーク、モバイルシステムなどの分野で活躍できる開発者・技術者とともに、ゲームおよびWeb関連の技術者やクリエイターの育成を目標としています。また、それぞれの専門領域に関する資格取得を積極的に支援しています。

● 出願にあたっての証明書等書類事前送付(必須)

転・編入学希望者は、出願前の下記期間に必ず本学へ必要書類を送付してください。詳細は「入学試験要項」をホームページで確認してください。

事前送付期間：2018年9月19日(水)～10月10日(水)

送付先：玉川大学入試広報部入試課 〒194-8612 東京都町田市玉川学園6-1-1

● 大学見学について

玉川大学のキャンパスは、平日の9時から16時までの間、自由に見学できます。入試広報課をおたずねください。

※8月24日～9月2日(夏期休暇)、12月22日～1月6日(冬期休暇)となります。

※校舎内への立入はご遠慮いただいております。

お問い合わせ先

玉川大学入試広報部

TEL.042-739-8155 FAX.042-739-8152

〒194-8612 東京都町田市玉川学園6-1-1

e-mail:koho@tamagawa.ac.jp

www.tamagawa.jp/university/

小田急線「玉川学園前」駅下車

- 新宿より小田急線の快速急行に乗りし、「新百合ヶ丘」で“各停”“準急”に乗り換え。
所要時間 約30分。

- 横浜・八王子よりJR横浜線に乗りし、「町田」で小田急線“各停”“準急”に乗り換え。
所要時間 約45分・約40分。

- 小田原より小田急線の快速急行に乗りし、「町田」で“各停”“準急”に乗り換え。
所要時間 約60分。

- 羽田空港より京急空港線に乗りし、「京急蒲田」で京急本線に乗り換え「横浜」へ。JR横浜線に乗り換え「町田」で小田急線“各停”“準急”に乗り換え。
所要時間 約90分。

